

平成20年度環境技術実証事業

山岳トイレし尿処理技術ワーキンググループ会合（第5回） 議事要旨

日時	平成21年3月12日（木）10:00～12:20
場所	ニュー新橋ビルB2 ニュー新ホール
出席者 （敬称略）	<p>検討員 相野谷誠志、岡城孝雄、井田忠夫、桜井敏郎、船水尚行、穂苅康治 森武昭（座長）</p> <p>環境省 環境研究技術室 山根正慎、夏井智毅 国立公園課 勝田孝、 自然環境整備担当参事官室 田畑克彦</p> <p>実証機関 （財）日本環境整備教育センター 加藤裕之</p> <p>実証申請者 （株）オリエント・エコロジー 藪下貴弘</p> <p>事務局出席者 上幸雄、加藤篤、永原龍典、山村涼</p>
議事	<p>(1) 本年度実証試験結果の確認</p> <p>(2) 試験要領第6版（案）の確認</p> <p>(3) 山岳トイレ技術分野の今後の取り組みについて</p> <p>(4) その他</p>
配付資料	<p>資料1 実証試験結果報告書（案）〈試験地：明智平〉（（財）日本環境整備教育センター）非公開</p> <p>資料2 実証試験結果報告書（案）〈試験地：霧降庵〉（（財）日本環境整備教育センター）非公開</p> <p>資料3 試験要領第6版（案）</p> <p>資料4 山岳トイレ技術分野における検討内容と実施状況</p>
公開／非公開	議事(1)は非公開で行なわれた

事務局より、2月19日-20日に開催された山岳トイレ技術セミナーの開催報告を行った。

・参加者数 19日 109人、2日目 64人

・参加者は、山小屋関係者のほか、地方公共団体やコンサルタントなど、ユーザーやその関係する人に多く参加していただいた。

<議事1は非公開>

報告書はWGでの指摘事項を踏まえることとして、承認することとした。

<2 試験要領第6版(案)の確認>

- ・資料3に基づき、事務局から説明を行った。
- ・検討員より、申請から試験の実施までに時間を要するのは、経年実証試験の立ち上げとなる21年度のみ、22年以降はこの流れを短縮していくことが望ましいとの意見があった。
- ・検討員より、基本的に当初の実証データがあるので、予備調査におけるデータ不足で、申請を持ち越すケースは基本的には考えにくいとの意見があった。
- ・検討員より、予備調査にどのような項目を用意すべきか事前に示しておく必要があるとの意見があった。
- ・検討員より、山小屋等利用者数などの計測を依頼するためには、安価で使い勝手のよいカウンターを準備することが必要である。また、データ収集期間として、予備調査を位置づけたいとの意見があった。
- ・検討員より、予備調査において、詳細な利用状況や維持管理費等について、把握することは難しいとの意見があった。
- ・検討員より、維持管理の状況に関しては、どの部分にトラブルや故障があったかなど、出来るだけ詳細に把握することが必要であるとの意見があった。
- ・検討員より、簡単に維持管理性能をチェックできる項目があると望ましいとの意見があった。
- ・環境省より、維持管理の状況をできるだけ把握しておくことは重要なので、当初の実証試験時と比べて利用状況や維持管理状況の変化についても、感覚的なものでも構わないので申告してもらうほうがよいとの意見があった。
- ・検討員より、今回の経年実証試験の概要については、親検討会でも了承されているとの意見があった。

●資料3についてはWGでは承認することとした。

<山岳トイレ技術分野の今後の取り組みについて>

- ・事務局より資料4にもとづき説明を行った。
- ・検討員より、実証試験のフレームではない、データベースやアドバイスの実施体制・方法などの検討は、将来的には環境省の枠組みの中での活動ではないと考えられるとの意見があった。
- ・これに対し、環境省より、試験以外の運営機関の自主的な活動も事業に含めて問題ないとの説明があった。
- ・検討員より、データベースは検索性などの話が先行しがちであるが、作成後の維持管理についても検討しておくべきであるとの意見があった。

<その他：ロゴマークの改定案について>

- ・環境省より、参考資料にもとづき、ロゴマークの改定案について説明を行った。
- ・検討員より、改定案の「分野別自由記述欄」について、経年実証試験の内容等を記載できるようにしたいが、現在の案では枠が狭く、必要事項が書き表せないため検討が必要であるとの意見があった。
- ・また、技術ユーザーが利用するためのロゴマークにおいては、ロゴマークの意味が一般に理解してもらえるよう、十分に内容検討されることが必要との意見があった。
- ・本議題は、21年度以降、親検討会における指摘事項を踏まえたうえで議論していくことにするとの意見があった。

<その他：環境技術実証事業検討会の報告>

- ・座長より、環境技術実証事業検討会における山岳トイレ技術分野の状況報告として、「データベースの検討」「経年実証試験」「山岳から山麓・海浜・離島へ対象範囲拡大」について行い、本WGで了承されたことを報告した。
- ・また、検討会において、対象範囲の拡大や技術的に山岳地以外でも使えることを考えると、今後、「山岳トイレ」という名称の変更等についても検討していくことが必要であるのではないかとの意見があったことが報告された。
- ・名称の検討に関しては、次年度の山岳トイレ技術WGにおいて、早い段階で議論を行ったうえで親検討会に諮って行きたいとの意見があった。
- ・環境省より、昨今の不景気が影響してか他分野では、申請者が減少傾向にあるが、山岳トイレ分野は、特に技術申請が多いヒートアイランド分野に次いで、申請が多いとの報告があった。